

令和5年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	49	学校名	静岡県立島田高等学校	記載者	鴨藤 忠博
------	----	-----	------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	生徒の高いところを育成し希望する進路の実現を図るために、ICTを活用しながら授業外学習と連動した質の高い授業を創造する	<ul style="list-style-type: none"> 予習、授業、復習のサイクルを意識して取り組んだ生徒 70%以上 スタディサプリを学力向上のために有効に使えたと感じる生徒 80%以上 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 予習と復習のサイクルを必要とする授業を教員が意識をしているか。また、そのような授業を行うための研修の実施など必要かもしれない。 ICT活用が進む時、これまでの予習と復習サイクルについても発想の転換があるのかもしれないということなども考えていく必要がある。 スタディサプリの必要性について考えるべきである。 課題解決型の授業への転換が必要だ。 グランドデザインにある、探究や価値の創造などが、授業に反映されていくよう、目標設定自体を見直す必要がある。 生徒が主体的に学ぶ姿勢を育てていくことが大切だ。アンケートから教員の面倒見の良さがうかがえるが、それだけでなく、生徒が自ら興味あることについて調べ考えることを通じて、本質を見抜く力を育ててほしい。それらの過程が生徒の将来に向けた力になる。 1年生のアンケート回答からうかがえる学校に対する熱意が、3年生になると、もっと穏やかな表現になっているのどういうことか気がかりであるが、総じて、教員との関係性に満足しながらいる様子が見える。 課題を与えるだけでなく、それがなぜ必要なのか、生徒への伝え方が大切だ。なぜ学
		<ul style="list-style-type: none"> 授業への主体的な取り組みを意識する生徒 70%以上 職員1人2回以上の授業見学 ICT活用に向けてのマニュアルを作成し研修を年2回以上 	B	B	
		<ul style="list-style-type: none"> 土曜補講受講率 70%以上 4年制大学進学志望者のうち、国公立大合格 30%以上 進路関係について主体的に考えることができた生徒 90%以上 しまこう学問探究ナビ満足度 90%以上 	A	A	
		<ul style="list-style-type: none"> 年間5回以上の面談実施 放課後補講、土曜補講に意欲的に参加できた生徒 80%以上 主体的な進路選択が出来たと実感する生徒が 80%以上 	A	A	
		<ul style="list-style-type: none"> 平日2時間以上、休日3時間以上の学習達成生徒 60%以上 課題居残り後未提出1名以下 学年通信発行 12回以上 修学旅行で視野が広がる生徒 90%以上 	B	B	

		<ul style="list-style-type: none"> ・週末課題未提出生徒 10%以内 ・1日平均の2時間以上の学習時間達成生徒 60%以上 ・学年便り年10回以上の発行 	B	B	<p>ぶのか、生徒自身の心に落とし込むための手立てが必要だ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行については、国内においても、十分生徒にとって視野の広がる体験になったことがわかる。 ・週末にも自身で必要性を感じて学習できる生徒を育てていくことが大切で、その方法について研究する必要がある。 ・フォーサイト手帳は、一人一台端末といずれかの優先順位の中でその活用について考えていく必要がある。
イ	人として正しく生きるために、自律した生活態度の育成を図り、多様な価値観に対応した規範意識を涵養する	<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみ検査を各学期1回以上実施 ・自転車安全指導カード昨年度比半減 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・配慮していると思うが、多様な生徒への対応として、身だしなみ検査の基準や方法については確認が必要だ。 ・交通安全について、生徒により実感的に注意喚起する努力をしてほしい。 ・学校生活が「充実している」と感じている、ということが生徒にとって学校がどうあるかを量る一番の指標とも思うため、「充実している」と回答する生徒が80%を超えることは非常に良いことである。 ・行事に主体的に取り組めたと感じる生徒が、目標の95%には達しなくも、8割近くおり、生徒が学校生活を前向きに捉えていることがうかがえる。 ・落ち着いて学校生活を送るための働きかけとしての昇降口指導は、その目的が教員間で正しく共有されると良い。
		<ul style="list-style-type: none"> ・フォーサイト手帳によるPDCAサイクルを確立させたと回答する生徒80%以上 ・充実した高校生活と実感する生徒80%以上 ・頭髪服装検査時、指導対象の生徒5名以下 	B	B	
		<ul style="list-style-type: none"> ・六月祭など学校行事に主体的に取り組む生徒95%以上 ・服装、頭髪で指導される生徒0 ・イエローカード50枚未満 	A	A	
		<ul style="list-style-type: none"> ・8:20昇降口通過者99% ・頭髪服装検査を学期に1回以上実施 	A	A	
ウ	豊かな人間性、国際感覚、他者との良好な関係づくりを身につけ、社会で逞しく生き抜く力を養う	<ul style="list-style-type: none"> ・1部活1つ以上のボランティア活動実施 ・学校生活が充実していると答える生徒85%以上 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動やボランティアが、生徒の主体性やコミュニケーション力、継続力を育てる場として機能してほしい。 ・読書をしない生徒が目立つが、自ら考える生徒を育てるために、読書を促すことは大切である。
		<ul style="list-style-type: none"> ・相談できる相手がいる生徒90%以上 	A	A	

様式第5号

		<ul style="list-style-type: none"> ・全校の年間図書貸出数 2000冊以上 ・演劇教室に満足した生徒 90%以上 	A	A	
エ	適正かつ効率的な予算執行による学習・教育環境の整備や、地域・関係外郭団体との協働により安全で安心な学校づくりを目指す	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災訓練の参加率 60%以上 	C	C	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練における高校生の役割について地域と学校が連携して捉え直し、その力が発揮できるような仕組みづくりをするべき時が来ていると思う。 ・業務改善は、なかなか難しいところがあるが、業務の必要性についてこれまでと異なる見方をもって検討していくことが大切だ。
		<ul style="list-style-type: none"> ・業務の効率化・平準化・適正化が図られた職員 75%以上 	C	C	
		<ul style="list-style-type: none"> ・施設、設備に起因した校内事故の発生件数 0 ・申請書類の期限内提出率 95%以上、差戻し率 5%未満 ・学校経営予算の執行率 99.5%以上、外郭団体の予算執行残額 25万円未満 	A	A	
オ	丁寧な生徒指導・進学指導を垂範する進学校として教育活動・教育実践を的確に発信するとともに、連携接続のための情報収集・情報交換を密にする	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ更新 年間 150回以上 ・中学校訪問 2回以上 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページは、公立の学校においては、特に目立つことについては目指す必要はないのではないか。ただ、保護者にとっては、安心する材料になるだろう。 ・生徒に発信する場を与えることも大切だ。地域へ生徒の姿が見えて来ると良い。
		<ul style="list-style-type: none"> ・学校の様子を知ることができた保護者 70%以上 	A	A	